



第号泣回

つもらない覚悟と

ド・ン・マ・イ・M・Y・フ・レ・ン・ス 「再び」

考
え
カ
マ
ル
ツ
ウ
シ
カ

弦楽器イルカ ⇒ 友人



目次

第号泣回 つまらない覚悟と「ドンマイ MY フレンド」再び～G から U へ～ 1

第号泣回 つまらない覚悟と「ドンマイ MY フレンド」再び ～G から U へ～

タケカワユキヒデの「ドンマイ MY フレンド」が今こそ必要だと思うんだよね。前にも言った、あのオレオレで熱狂してたJリーグ誕生の裏で、野球界からのオファーにも関わらず盛り上げに失敗した公式ソングね。

でもみんなユキヒデを舐め過ぎだよ。モンキーマジックでしめて次の冬季五輪にバトンタッチするって流れもあるのに。子だくさんで多様性だし。

今こそ、「ドンマイ MY マイフレンド」がこの国の五輪に必要だって、一応言っとくね。マイが一回多いのもドン MY。

とりあえず汚山駄って書くことにするんだけど。間違っても擁護とか勘違いされんのが絶対に嫌だから。

少なくとも、俺は汚山駄と汚沢とついでに電鬼とかまで謎の連帯責任で、このあと口汚く罵る予定だし、学生時代からなけなしの金を彼らの音楽に注ぎ込んできたけど、弱ったヤツから千尋の谷に突き落とすのがサブカルの礼儀だって俺は彼らに教わったからさ。こっから這い上がる様を信じてるし。

はじめに、金を受け取る仕事として何かを語る人間はせめて、騒動の中心であるロッキンと QJ の原文は全部読むべきだろうと俺は思う。身銭切って文章を投稿してるウマシカならまだしも、マスコミが先入観だけで物事を語るのは職務放棄に等しいだろう。

まずいじめがあったら一般的に、学校と教育関係者が事実関係を丁寧に確認して、警察や司法に委ねるのかも含めて適切に対応することが求められるだろう。その際に最も重要なのは被害者がどう考えているのか、その思いを汲むことだ。被害者が一番尊重されなくてはならないのは当然だ。

だから汚山駄の記事も、どこまでが事実だったのか確認して、被害者がいるのであれば、その気持ちを尊重するために、関係者全員で動かなくてはならない。

特に、汚山駄の記事が本当だとすれば、あれは学校内で起こった未成年の集団いじめの話だ。でも学校と教育者と関わった全生徒らが、今までどんな対応をして来たのか、

外部には全くわからない。数十年間ウヤマヤにしてきて、誰も責任をとっていないと感じる。

しかしもし被害者が、もうあまり騒がないでほしいという思いであれば、学校側の対応もこれ以上なかったのかもしれないし、そもそも広く報道すること自体が二次被害になる。今、汚山駄が五輪の音楽担当としてふさわしくないと被害者側が感じているのかどうかも、全くわからない。

逆に被害者は今こそ、丁寧で公平な報道をしてほしいのか、あるいは裁判に訴えたいのか、その部分を、学校や教育関係者と加害者が連携して確認し、解決に向けて動かなければならない。当時、未成年が学校内で起こした集団いじめなら、そこからしか解決は導かれないはずだ。

その部分についての議論が、あまりにもなされていないと俺は感じるが、結局それは、汚山駄を降板させる動機が、被害者や障害者の気持ちを尊重するためよりも、単に反五輪だからだ（俺自身も五輪は好みじゃないけど）。五輪さえ終われば、このいじめの件はまた何もなかったことにされて、被害者のことなんて全員が忘れ去るだろう。

その証拠として、復興五輪とか被災地に目を向けようとか言ってるクセに、福島で甲状腺を摘出手術した子が実名と顔出して、甲状腺検査のおかげで自分のように助かることもあるから、今後も検査を続けてほしいと以前から訴えているにも関わらず、大手マスコミは一切報道せず、中途半端な会議と議論で検査を打ち切ろうとしている。

検査を続けるにしてもやめるにしても、それぞれにメリットとデメリットがある以上、国民的な議論がなされるべきだと俺は思う。しかしこの国の国民お得意の、喉元過ぎたはななかったことの如しで、被害者や弱者の国民に寄り添う気なんてさらさらない。

そのかわり、世界の金持ちに媚びへつらいたいという理由で、演出担当者はユダヤ問題であっさり解任された。

もちろん、弱者と寄り添うために世界が生まれたワケじゃないから、この国の正義が薄っぺらいのは当然だ。しかし自分にとって都合のいい正義だけを振り回したいなら、右も左もせめて自覚はするべきだと俺は思う。自分の都合という手垢で、すべての正義は初めから腐っている。

汚山駄の告白記事は、自分だけでなく関係者全員を告発している内部リークでもある。だから、汚山駄自身が実際にしたことと、行動ではなく見聞きして感じたことについては、責任が分けられるはずだ。

実際にしたことは、未成年が集団で起こしたことであり、学校側と連携して、被害者の気持ちを尊重して責任を取る。汚山駄は傍観者で実行は別の生徒だという具体的な記述もある。

汚山駄が見聞きして感じたこと自体には、罪はない。ただ、それを成人後に笑いなが

ら語って、商業誌に掲載するという責任は、出版社と汚山駄自身にあるだろう。

特に汚山駄が、「被害者が母親にチクらない」ことを「僕好みのキャラクター」と言っている点は、汚山駄のひん曲がった性根を表しているし、批判する側もそこをもっと正当に非難しないことに、俺はがっかりしている。汚山駄のクソさはそこにこそ輝いているのにも関わらず。

汚山駄が「見聞きして感じたこと」について、わざと例え話にするが、ラグビーボールが、他の丸いボールと違って細長いし、どこに弾むか分からない、というのは単なる事実だ。その単なる事実を変だととらえて笑うのは、未熟な子供だからだ。しかし面白いと思ったり感動さえしてしまうことを否定するのも、一種のハラスメントだと思う。

結論として、ラグビーボールは丸いボールとは違うが、それは個性であり変ではないということを教え諭すのが、教育のはずだ。

一方、ラグビーボールを変だと広めるのは差別を助長することで、関与したヤツが上から順番に責任をとればいい話だろうと、俺は思う。

ただ、汚山駄の性格や音楽自体、性根のひん曲がった俺みたいなウマシカしか好まない。時代関係なく、偽善よりも偽悪を好むようなクソがいて、岡崎京子のマンガだってそういうクソをクソのまま描こうとしてたはずだ。

もともとマンガやゲームだって親から迫害されるクソだったのに、儲かると思ったら手のひら返しで何でも利用する節操の無さに、敗戦後、鬼畜米英がギブミーチョコレートに変わったこの国のクソさを改めて感じる。

自分も含めて全員クソだってことに無自覚なクソが同じクソを非難する、ここはクソの帝国主義国家だと俺は思う。

ロッキンの記事原文を元に汚山駄を批判したいのであれば、本当にウンコを食わせたのか、食わせたとすればそれを誰が考えて、誰がどう実行したのか、検証が必要だ。

汚山駄の物言いが露悪かつ偽悪的であるのは、性根がひん曲がっているせいであって、それはラグビーボールと同じ個性でもある。もちろん他人を傷つけることは個性として認められないので、被害を受けたと感じたら被害の度合いに応じて然るべき訴えをするのが道理だ。ただし、法治国家で私刑は認められていないだろう。

QJの記事はやっと原文が元編集者側から出てきたけど、汚山駄がやっていないことまで、ネット上ではやったことにされている部分があるように見受けられる。また、記事が事実であれば、いじめは未成年の集団が起こしたことであり、汚山駄は唯一、学校

内で起こった集団いじめを世間に告発した生徒でもある。であれば、いまだに沈黙している他の同級生や学校側が非難される可能性だってあるだろう。

また、図書館に集まっている障害者を単に見に行くのはいじめではないし、感じたことを語っている部分も事実に基づいた記述だ。しかも障害者が自らの意志で、電車内で叫んだり、女性に抱きついたり性器を露出させて自慰している記述なども、ネット上ではなかったことにされている。それは障害者による無自覚なハラスメントという可能性もある。

そういった無自覚な部分も含めて、障害者を別の次元に閉じ込めいないことにするよりも、その個性の違いを認め合うのが多様性のはずだ。

自分に都合の良い部分だけを取り出して、都合の悪い部分を削除して非難するのはクソのすることだと、俺は思う。

さらに、汚山駄と同級生の障害者や朝鮮人との交流は、単なるいじめや友情ではなくくれない記述がなされている。

年賀状の掲載も、バカだと言いながらもわざわざ取っておいた物であり、汚山駄だけに届いていることも記載されている。

他にも汚山駄は、自分が障害者のファンであり、当時は自分にとって数少ない友達の一人であり、卒業後も会って話をしたいと思っており、障害者が卒業後に自宅に閉じこもって外部に出ないことや話をしないことにショックを受けているという記載もある。

汚山駄が障害者を含めた他人をバカにして差別している部分と、障害者や朝鮮人の同級生に友情など複雑な感情を持っている部分の記載で、この記事は成り立っていると俺は思う。

そしてもし第三者がこの記事を基に汚山駄を非難するのであれば、いじめを放置した学校側も、いまだに誰も集団いじめを告白しない生徒側も、電車内でハラスメントを起こしていた障害者も含めて、全体を非難しなければフェアではないと、俺は思う。

以上を踏まえた時、この記事がなぜ今まで何度も話題になってきたのに、明るみに出なかったのか、出版社も学校も加害者も誰も責任を取らなかったのかがわかってくるだろう。

被害者側の訴えがはっきりせず、加害者と被害者の関係も曖昧で、それらをはっきりさせるには関係者全体で動かなければならないから、あえてウヤムヤにしてきたのだろう。

汚山駄はなんとなくその流れに乗って、今までは事なきを得てきたが、反五輪の動きに飲み込まれて追いつかれた。

しかし、汚山駄が本当に障害者のファンであったなら、もっと以前に被害者に対して

適切な対応をしておくべきだった。いじめを偽悪的に告白したのであれば、その後の経過も含めて世間に報告するのが大人のすべきことだった。今や人の親であるならばなおさらだ。

被害者だけでなく、俺も含めた汚山駄のファンはあの記事で何度も傷ついた。踏みたくもない踏み絵を踏まされた恨みが、俺にもある。

俺自身は、小学校の同級生が帰宅途中で障害者をからかっているのを見て「やめたほうがいいよ」と言ったこともあるし、そういういじめには加担してこなかったつもりだ。でも、汚山駄のファンでいることはそういう俺自身の生き方の一部を否定することでもあった。

最後に、今回の件と関係ないけど、電鬼の過去の本で、縊死野が初体験について冗談交じりに語っている記事にも、ファンだった俺は心底嫌な気持ちになった。

他にも今回の件で過去の記事を調べていたら、汚沢も大量に書店から万引きしていたと告白していて、当時ヤツらがインタビューで嘘ばっかついていたのは知ってたが、これも被害者のいる可能性がある話だ。

これら、もし被害者がいるのであれば、その気持ちを優先するのがまず第一だろう。

そしてもし被害者に適切な対応をして、彼らが許される日が来るのであれば、マリンも入れたダメファイブとして、5人でTKO（トリプルノックアウト）ライブでもチャリティーでもやれば良いと思う。マリンに公開説教される4人の様を見てみたいし。マリンにとっては罰ゲーム並みの重荷でしかないだろうが、触る者みなバカにするサブカル沼からデビューしたヤツらが、簡単に擁護されて許されるお花畑なんか絶対に望んじやないはずだ。地獄でのたうち回るのがお似合いだ。

性根のひねくれたアーティストを支えるのは、やはり性根の腐り切った俺みたいなファンだ。千尋の谷から命からがら這い上がってきたアーティストの顔面にクソを投げつけるのが歓迎の証であり、ディヴァインを見習って喜んでクソ食うのがアーティストの仕事だ。その覚悟にファンは泣き笑いで金を払うだろう。

完全にまともじゃないが、渋谷系は元々、メインカルチャーに中指突き立てたパンクでさえも鼻で笑う偽悪者だったはずなのに、汚山駄にメインカルチャーとサブカルをつなぐ音楽的才能があったせいで、バランスが崩れてしまった。

ユキヒデくらい上手に枯れるか、の子ぐらい突き抜けてたら、アニソンには呼ばれても利権五輪にまでは呼ばれなかったはずだ。

これから自分の幸せが一体どこにあるのか、「ストレンジ・カメレオン」でも聴いてベタでも真剣に考えてほしいですよ。汚山駄さん。「ウォーターフォールに流れ行く正月」でもいいですが。

そして被害者がいると考えれば、この件でサブカル界の第三者が配信で金を取ること

とかも、俺は被害者の気持ちを尊重していないクソだと感じる。でもいいんだよ、人間なんて全員クソだから。きっと自分が被害者を無視して金を取るクソサブカル野郎だって自覚くらいはあるはずだしさ。

ただ改めて学んだのは、サブカルで金を稼ぐなら、できるだけ日なたは歩かないという強い覚悟がいるってことだろう。一生日陰暮らしの代償として、他人のゴミを漁って金を稼ぐことが黙認されている。でないと、汚山駄みたいに過去の自分の偽悪に呪い殺される可能性がある。

今回はこんな感じ。どうかな？



考えるウマシカ～第号泣回 つまらない覚悟と「ドンマイMYフレンド」再び～

著 弦楽器イルカ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
